

第48課：使役

使役形用來表達「叫某人做」或「讓某人做」。中文可以譯成「叫」、「令」、「讓」，但日文不能只靠中文意思決定助詞。先看動詞如何由辭書形／原形變成使役形，再看被安排做的動作本身有沒有受詞，才決定做動作的人前面用 を 還是 に。

今課集中處理四件事：使役形變法、N1は N2を V使役、N1は N2に Nを V使役，以及同一句使役如何按情境讀成強制或容許。第49課會再處理使役受身，所以本課先把「我叫／讓別人做」這個視角穩定下來。

■ 今課目標

- 由辭書形／原形變使役形，不由 ます形 倒推。
- 用 N1は N2を V使役 表達叫／讓某人做不帶受詞的動作。
- 用 N1は N2に Nを V使役 表達叫／讓某人對某物做某事。
- 分清自動詞使役和他動詞使役中的 を、に 選擇。
- 按情境判斷使役句是強制、指示、安排，還是容許。

一、使役形如何變

■ 由辭書形／原形出發

使役形一定先看動詞的辭書形／原形。五段動詞把結尾改成同一行的 a 段音，再加 せる；う 結尾改成 わせる。一段動詞去 る 加 させる。する 變 させる。来る 變 来させる。

■ 形式規則

使役形變法

動詞	做法	例子
五段	う 結尾變 わせる；其他結尾改 a 段音，加 せる	買う → 買わせる／書く → 書かせる／読む → 読ませる／話す → 話させる
一段	去る，加 させる	食べる → 食べさせる／見る → 見させる／起きる → 起きさせる
する	させる	練習する → 練習させる／説明する → 説明させる
来る	来させる	来る → 来させる

先確認原形和動詞類別，再一次變成使役形。不要由 ます形 倒推，否則很容易把五段和一段混在一起。

■ 練習

一、將辭書形／原形改成使役形。先判斷動詞類別，再寫答案。

- ① 書く → _____
- ② 読む → _____
- ③ 買う → _____
- ④ 食べる → _____
- ⑤ 起きる → _____
- ⑥ 練習する → _____
- ⑦ 来る → _____

二、先判斷動作有沒有受詞

■ を 和 に 的決定規則

使役句最容易錯的不是變形，而是助詞。先問：被安排做的動作本身有沒有一個 N 在？如果沒有，做動作的人通常用 を。如果有，真正受詞要保留 を，做動作的人通常改用 に。

使役句助詞快速分辨

判斷問題	句型	例子
動作本身沒有受詞	N1 は N2 を V使役	先生は学生を立たせました。
動作本身有受詞	N1 は N2 に N を V使役	先生は学生に答えを書かせました。

三、N1 は N2 を V使役：叫／讓某人做不帶受詞的動作

■ 自動詞使役多用 N2を

如果被安排做的動作本身沒有受詞，例如 立つ、座る、行く、帰る、休む、起きる，句型通常是 N1 は N2 を V使役。N1 是安排、命令或允許的人；N2 是實際去做動作的人。

不帶受詞的使役句

角色	助詞	例句部分
安排或允許的人	は	先生は
被安排做動作的人	を	学生を
沒有受詞的動作	使役形	立たせました

■ 例句

1. 先生は学生を前に立たせました。
→ 老師叫學生站到前面。
2. 父は弟を朝六時に起きさせました。
→ 爸爸叫弟弟早上六時起床。
3. 部長は田中さんを大阪へ行かせました。
→ 部長安排田中先生去大阪。
4. 熱があったので、先生は学生を早く帰らせました。
→ 因為學生發燒，老師讓學生早點回去。

■ 練習

二、用 N1 は N2 を V 使役 寫句子。提示中的動作都沒有自己的受詞。

- ① 先生／学生／前に立ちます → _____
- ② 父／弟／朝六時に起きます → _____
- ③ 部長／田中さん／大阪へ行きます → _____
- ④ 母／子ども／少し休みます → _____

四、N1 は N2 に N を V 使役：叫／讓某人對某物做某事

■ 他動詞使役要保留真正的受詞

如果被安排做的動作本身會帶受詞，例如 宿題を直す、野菜を食べる、名前を書く，真正的受詞仍然用を。為了避免一句中出現兩個角色都用を，做動作的人通常用に，句型是 N1 は N2 に N を V 使役。

有受詞的使役句

角色	助詞	例句部分
安排或允許的人	は	先生は
被安排做動作的人	に	学生に
真正受詞	を	答えを
動作	使役形	書かせました

■ 例句

1. 先生は学生に答えを書かせました。
→ 老師叫學生寫答案。
2. 母は弟に野菜を食べさせます。
→ 媽媽叫弟弟吃蔬菜。
3. 先輩は後輩に資料を直させました。
→ 前輩叫後輩修改資料。
4. 私は子どもに好きな本を選ばせました。
→ 我讓小朋友選自己喜歡的書。

■ 練習

三、用 N1 は N2 に N を V 使役 寫句子。先圈出真正受詞，再決定誰用 に。

- ① 先生／學生／答案を書きます → _____
- ② 母／弟／野菜を食べます → _____
- ③ 先輩／後輩／資料を直します → _____
- ④ 私／子ども／好きな本を選びます → _____

五、強制還是容許：意思要看情境

■ 同一個使役形可以有不同語氣

使役句的核心是 N1 使 N2 做某動作。這可以是命令、安排、訓練，也可以是允許。判斷時看三點：N2 本來是否想做、N1 是否阻止或批准、句中原因是否顯示壓力或照顧。

強制和容許的判斷

讀法	常見線索	例子
強制／指示	N2 不一定想做，或句中有規定、訓練、時間壓力	先生は學生に漢字を何回も書かせました。
容許／放行	N2 本來想做，N1 批准、容許或停止阻止	母は子どもを友だちの家へ行かせました。

■ 例句

1. 試合の前に、コーチは選手を一時間走らせました。
→ 比賽前，教練要選手跑一小時。這句較自然讀成訓練或要求。
2. 會議が終わったので、部長はみんなを帰らせました。
→ 會議結束後，部長讓大家回去。這句較自然讀成容許或放行。
3. 危ないので、母は子どもを一人で遊ばせません。
→ 因為危險，媽媽不讓小朋友獨自玩。這句是禁止。

■ 只作辨認：～させていただけませんか

有時會見到 休ませていただけませんか、早く帰らせていただけませんか 這類禮貌請求，意思是請對方允許自己做某事。本課只需要認得它和『讓我做』有關，不需要把它當成新的作文句型。

■ 練習

四、按情境判斷較自然是『強制／指示』還是『容許／放行』。

- ① 會議が終わったので、部長はみんなを帰らせました。 → _____
- ② 試験の前なので、先生は学生に漢字を何回も書かせました。 → _____
- ③ 熱があるので、先生は学生を早く帰らせました。 → _____
- ④ 試合の前に、コーチは選手を一時間走らせました。 → _____

■ 常見錯誤

- **×** 母は子どもに寝させます。
○ **母は子どもを寝させます。**
寝る 本身沒有受詞。做動作的人通常用 を。
- **×** 先生は学生を答えを書かせました。
○ **先生は学生に答えを書かせました。**
書く 在這句有真正受詞 答えを。被安排寫的人用 に，受詞保留 を。
- **×** 食べる → 食べせる
○ **食べる → 食べさせる**
一段動詞去 る 之後加 させる。
- **×** 使役一定表示強迫。
○ **使役可以表示強制，也可以表示容許。**
例如 先生は学生を帰らせました 可以是『叫學生回去』，也可以是『讓學生先回去』，要看情境。
- **×** を和に由中文『叫』或『讓』決定。
○ **先看日文動作有沒有真正受詞。**
沒有受詞時多用 N2 を；有受詞時，N2 改用 に，真正受詞保留 を。

自己輸出：寫一句 N1 は N2 を V 使役、一句 N1 は N2 に N を V 使役，再各自標出是強制、安排、容許，還是禁止。
